

令和4年度 江戸川区立瑞江第三中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○自ら学んで、自己を高める生徒【知性】 ○人を大切に、共に生きる生徒【敬愛】 ○心身が健やかで、活力のある生徒【健康】	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○全ての生徒の学ぶ権利を保障し、全ての生徒の可能性を伸ばす学校 Leave no one behind. (誰一人取り残さない) ○実践力のある生徒 ○他者とのかわりを大切に作る生徒 ○自己と向き合える生徒 ○全ての教職員が、教育の専門家として成長できる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○補習授業を計画的に行うことができた ○校内委員会を中心に連携して、生徒指導を行うことができた <課題> ○ICT機器の活用環境を整える ○授業力の向上 ○いじめの根絶		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・放課後補習教室の実施(数学) ・授業の工夫、改善のための研究授業の実施 ・タブレット端末を活用した個別最適化授業の実施 ・学び合い、話し合い活動を主軸とした授業の実施	・定期考査ごとに補習教室の対象者の見直しを行う。 ・月1回の校内研修を行う。	B	B	<成果> 学び合いやタブレット端末を活用した授業を促進できた <課題> 月1回の校内研修を実施することができなかった。	A	生徒がグループで学び合いをしたり、タブレット端末を活用したりして楽しく学べている。	・研修計画の中に、「授業観察」「授業改善」を入れ、計画的また組織的に推進していく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善	・体力の基礎となる基本的な生活習慣の改善を図る。 ・外部機関と連携して「あそび」や「レクリエーション」を通して、運動意欲の向上を図る。	・外部人材を活用した「運動」に関する出前授業を年に2回行う。	A	A	<成果> 外部人材を活用した授業を全校や学年で行い、生徒が意欲的に活動に取り組むことができた。 <課題> 次年度に繋がる取組にしていく。	A	子どもたちが楽しく笑顔になる活動が充実することはとてもよい。	・SDGsやLGBTQ等の学習テーマを決め、外部人材を活用した授業を行う。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・図書ボランティアや地域の図書館との連携により、図書館の活用を推進する。 ・読書科を通じて、それぞれが課題を発見し、課題解決のために読書を活用できるよう指導する。	・図書館開室スケジュールを年内に確立する。 ・校外学習や行事の事前事後学習において、探究的な学習を行う。	B	B	<成果> 図書ボランティアのお陰で、書架の配置や飾りつけなど、生徒が見やすい環境にすることができた。 <課題> 生徒がそれぞれのテーマをもって取り組む探究活動および図書館を活用した探究活動を計画的に行う。	A	読書にもっと親しんでくれるといいと思う。	・読書科および探究活動の充実を図るために教務部の担当を中心に組織的に取り組んでいく。 ・教科領域横断型の読書科(探究活動)年間計画の作成を行う。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・校内委員会を中心に、SC、SSW、エンカレッジルーム、教育相談機関、医療等の関係機関との連携を図る。 ・生徒の教育的ニーズの把握 ・保護者との信頼関係の構築 ・発達障害等への理解と指導法の工夫	・毎週1回の特別支援校内委員会の実施と連携の強化	A	A	<成果> 週1回の校内委員会において情報共有を図ることができた。特に3年の進路に向けて、別室登校生徒が意欲的に取り組めるようになった。 <課題> SSWとの連携強化	A	支援を必要としている生徒が増えていると聞くので、対応をお願いします。	・特別支援校内委員会の充実を図るのみならず、対象生徒への具体的なかつ実現可能な対応策を立て、月単位でその効果を検証していく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化	・いじめの早期発見、早期解決 ・不登校の初期対応の徹底 ・ソーシャルスキル、グループエンカウンター、hyper-QUを活用した予防的、開発的な指導の実践 ・問題行動への一貫性のある指導 ・情報の共有化と迅速な対応	・各学期にいじめアンケートを行うだけでなく、日頃から生徒の様子を共有、報告、問題解決に努める。 ・30日以上欠席する生徒を15人以下にする。	B	C	<成果> いじめの早期発見、情報共有、問題解決に努力した。 <課題> 不登校生徒や別室登校の生徒の教室復帰	A	いじめや不登校は日本の抱える問題でもあるので、地域や保護者も含めて解決に努めていくことが大切だと思う。	いじめの初期対応、別室登校生徒への支援の充実のため、生活指導部および特別支援委員会で改善策を話し合う。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校公開や学校評議員、教職員による評価を適正に行う。	・学校評議員会の開催 ・学校公開週間、道徳地区公開の開催	B	B	<成果> 年2回の学校評議員会、学校公開を開催することができた。 <課題> 学校関係者評価の結果を分析し、次年度に生かす。	A	公開期間があると学校の様子がよくわかるので、是非参加したい。	感染症対策をしながら、適切に公開をしていく。
	保護者、地域との積極的な連携	・学校公開の促進	・近隣小学校の児童を対象にした授業公開や部活動体験を実施する。 ・保護者や地域と連携して、地域ボランティア活動を行う。	・小学生向け授業体験(年1回) ・小学6年生保護者対象学校説明会の開催(年2回) ・地域ボランティア活動(年2回以上)	A	A	<成果> PTAや地域との連携で「資源回収」を行ったり、生徒主体で瑞三ビューティー(清掃ボランティア)を行ったりすることでボランティア活動を充実させた。 <課題> SDGsを意識したボランティア活動を充実させる。	A	ボランティア活動を自分たちからできる子供たちは素晴らしいと思う。	SDGsを意識した大きな視野を持ったボランティア活動の充実および生徒の主体的活動の充実を図る。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学校経営支援を担う人材や部活動指導員の活用。 ・ライフワークバランスの充実を図る。 ・定時退庁、適切な年次休暇の取得を意識し、タイムマネジメントを実践する。	・タイムマネジメントミニ研修開催 ・定時退庁日の設定	B	C	<成果> 副校長補佐やSSWの活用を推進を図った。 <課題> 働き方改革が浸透せず、超過勤務の常態化を是正することができなかった。	B	先生たちの超過勤務の原因が何なのか、根本原因を取り除いていくことはできるのか。	働き方改革を推進するために、超過勤務が常態化している教員に振り返りシートを配付、記入させることでタイムマネジメント力の向上に努める。
	キャリア教育の推進	・「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つのフィルターを通して教育活動を捉え直す。	・外部人材による職業講話の実施。 ・チャレンジザ・ドリームによる体験的学習の充実	・高校の先生の話や聞く会、職業講話などゲストティーチャーを招いた会を複数回開催する。 ・職場体験の実施	A	A	<成果> 外部人材の活用により、進路やマナー講座などを開催し、生徒の学びの充実を図った。 <課題> 学年ごとではなく、繋がりのある大きなテーマをもった活動の充実を図る。	A	先生だけでなく、いろいろな職種の方々のお話を聞くことは新鮮だし学びになると思う。	生徒が自身の生き方や進路、適性などをより一層意欲的かつ主体的に考えられる機会の充実を図るため、単発ではなく継続した学習にできる機会を設ける。